

正田洋一 政策レポート

後援会だより
リニューアル 第1号

正田洋一事務所

〒723-0062 三原市本町 1-7-32

TEL 0848-63-0085 E-mail info@shoda-yoichi.jp

HP www.shoda-yoichi.jp



未来の 扉を開く

—ご挨拶—

大変ご無沙汰をしてしまいます。この度、議員レポートを政策レポートとしてリニューアルして新たに発行することに致しました。三原市議会議員として活動をさせていただいて、12年目になりました。今号では、3期目の4年間の活動を、まずは政策視点で紹介するとともにともに直近の日々の活動についても幅広く報告をさせていただきます。よろしくお願いします。



山での整備活動、ヘトヘトになるけれど、とても気持ちの良い時間です



父と幸崎のふとんだんじりへ地域の皆様からいろいろなお話をうかがいました

三原市女性会で講演をさせていただきました





私が最も大切にしていることは、**課題解決と説明責任**ですと宣言し、3期目に望みました。私は、議員の基本に忠実に行動することが、市民の皆様の付託に答えることだと常に思っています。ついては、特異な話題を振りまき、目立つことに注力することをいいとは思っていません。とにかくひたむきに地域の現場で課題に向き合うことに注力してきたつもりです。

特に、**本郷の産業廃棄物処分場の汚染問題**には、たくさんの指摘・提案をしてきました。感情的に市長をあおるだけの議員もいましたが、私は政争ではなく、現実的な提案をやってきました。具体的内容は一般質問時系列で紹介します。そして、私の提案は、具体的な行動を引き出しました。即ち、市の意識・動きが変わりました。それは新聞記事でも確認ができます。また、この問題以外の地域課題についても、空き家対策、地域コミュニティのあり方、人口減少対策および獲得政策、地域医療をとりまく課題、デジタルデータ（ビックデータ）を用いた観光等の政策提案など多岐に渡る課題を、新たな視点を加え、課題解決もしくは補完できるカタチを具体的に提案しています。**空き家対策**については、三原市は全国でも先進自治体であり、全国市議会議長会でも視察に来られるまでになりました。



3期目の選挙演説の様です



月2回クリーン作戦をみんなで実施しています



インターン生とも一緒にやっさ祭りに参加

私は、40歳でビジネスの世界から議会人にキャリアチェンジを致しました。ビジネスの世界では、企業の研究所やマーケティング部門で学ばせていただいた経験があり、今の活動に活きたと思っています。ビジネスは科学、政策も科学です。きちんと事実に基づき、調査→仮説→検証（分析）→提案をすれば、施策はうまくいきますし、課題は前に進みます。

一般質問は、**当選以来47回連続（令和6年12月現在）を継続中**で、25名の議員の内、ここまで続けているのは、私と寺田議員だけです。即ち2番（まだ超えるのには20年かかります）です。なお、私より期の若い議員さんには、質問をすることを必ずやろうと声掛けしています。**議員が質問（提案）をすることは基本の「キ」**です。

2024年5月から副議長に就任致しました。議会内の選挙は難しい人間関係がでるところ。大変僅差の戦いになりましたが、総裁選などで目にするTVさながらの投票剥がしを小さな市議会という箱の中でも行われ、ハラスメント競争でなく、政策競争すればいいのにと強く思いました。私案ですが、いずれ議長、副議長選挙は公開の上で行うべきだと思います。

3期目も刺激的な議会活動・政治活動だったと思います。しかし、まだまだ課題解決にむけてやり残したことがたくさんあります。ひきつづき次の機会も挑戦させていただきたいと思います。

産廃処分場問題にかかわる私の提案・指摘

- 令和2年 水源保全条例の提案
- 令和3年 市独自の水質検査の提案
竹原市との連携等
- 令和4年 セカンドオピニオン法の専門家により条例および実効性の高い水質検査等の体制づくり
調整池等の施工不良等、環境整備の不備に対する指摘
住民との対話会・要望書の提出
- 令和5年 水源保全条例の制定
広島県に環境配慮手続き条例を求める提案
田んぼに水が入られないことなどの指摘と水路等整備の提案
- 令和6年 水源保全条例の施行の前倒しについて
業者および広島県に説明会を求めることについて
水源保全条例施行後、罰則規定の新たな制定について



この問題の大きなトピックは、水源保全条例が成立したことです。この提案を私は丁寧に行って来ました。しかしながら、市が出されたものは、私の判断ではまだ50点、これを60点、70点にして成立させたかったのですが、残念ながら思う通りにはなりません。ただし、本市が独自に調査をし、独自で指導することが法的には可能になりました。

引き続き求めていくことは、罰則の制定であり、検察庁との協議が必要なので、しっかり条例で指導、場合によっては起訴できるようにしたいと考えています。継続して提案を強く強くしていきます。

産廃処分場問題と共に取り組んだのは、空き家問題です。これは、私が地域で現実に行動を起こしていると同時に、新しい国の法改正にも一早く対応しています。三原市は空き家先進地と言われています。空家は活用ばかりがフォーカスされますが、倒壊危険空き家、片付け、遺産整理、ブロック塀等の対策など、多岐にわたり議会で提案をし、答えをいただいています。空家の増えるペースは速いですが、それに対応できる市の制度もかなりあります。私自身皆様の相談をいただいて、適切な窓口の紹介や施策のおすすめすることが可能です。

もう一つ熱心に提案していたのは、2050年の未来像を描くことです。

現在策定中ですが、30年後の未来を描き、20年後、10年後、5年後までに何をすべきかを、バックキャストで創造する手法を、前市長時代から提案してきましたが、今回、その手法により長期総合計画が三原市により策定されます。



未来像を描くことは、希望を描くこと、持続可能な三原市を作っていくために必要な事項だと思っています。テクノロジーの変化を予想しつつ、未来を描いて逆算して、やるべきことを決める。未来への扉を開かねばなりません。

デジタル化の推進についても、沢山の提案を具体的に行っています。デジタル化といっても多岐に渡り、市民目線では利便性の向上の視点で、市の政策面では効率的な政策効果の為のビックデータ等のデータ活用を具体的に提案しています。例えば観光、祭りに、誰が来て、何時間滞在して、いくらお金使ったか？分析すればわかります。そういうことを提案しています。これも企業の研究所でも経験が生きています。これらを今後も提案していきます。

学校を取り巻く問題、クラブ活動のこと、不登校のこと、誰かのせいにしたって問題の解決にはなりません。誰が何をすべきか？どのように環境を変えるべきか、どのような意識をつくっていくかという具体的提案を現場で発生している事柄をしっかり聞いて対処を提案しています。

政治を身近にしていく活動

政治の新しい波について書いておこうと思います。地方議会に限定して取り上げたいと思いますが、石丸伸二さんという存在が古い政治を壊すきっかけとなりました。評価はいろいろあるにしても石丸さんは、首長の立場での投げかけがいろんな波紋を呼びましたが、私は大まかには彼の政治姿勢を支持している数少ない議員だと思います。政治屋の一掃というキャッチフレーズは秀逸ですが、それだけでなく、本質をわかりやすく少し述べておきます。

地方議会の多くは、首長の与党が結成され、なんでも可決のOK議会が展開されています。だから石丸氏が市長に就任した時に、言うことを聞かせ、OK議会と引き換えに馴れ合いをするために議員は少しプレッシャーをかけてみたのです。そうしたら壮大に反撃され、あとは皆様の知っているとおりです。

OK議会を行っている議会は、機能不全を起こしています、また、議会で質問するものも極めて少なく、したとしても勉強不足もしくは調査不足の質問を垂れ流し、市民の課題を解決できていない。市長は、議員がポンコツなほうが都合よいのです。しかし、議会も若くて骨のある人材も増え、各地で議会に変化を起こしています。

私は、12年間をかけて議会の少しでも身近なものに、もっと先は面白いものに、議員は意見を反映してくれる存在になることを目指しています。皆様のご支援が必要です。裏で行われることも今は表に出やすい。政治が変わる時、新しい波によって議会の改革にも引き続きチャレンジします。



議員インターン活動について

私の事務所では、5年前からの取り組みで、毎年2回、夏（8月、9月）、冬（2月、3月）に大学生を私の議員事務所で受け入れるものです。目的は、相互の学びを掲げています。私は少しだけ若い人より知識や経験を持っているのでそれを提供し、私は若い人たちの考えや課題感などを学ぶものです。

議員（私）が若い人に主権者教育するなんて、おこがましいことを言うつもりはありません。このプログラムでは政策コンテストがあります。テーマは、30年後の未来を描き、10年後市長ならと30年後の未来を描き、10年後総理ならの政策コンテストです。国か地方のかじ取りをする役目ならというコンテストです。

ここで、みんなで考える政策は、私の議員活動に生きています。具体的に議会で提案に至った政策もあります。このプログラムでは、若い人に議員活動に示唆もらっています。5年間で多くの若い人に会いました。また、うちの事務所で学んだ若い人が、社会に出て活躍をし始めています。キャリア官僚になった若者、私の出身のNTTドコモ社に就職した若者、そして私のとことへ報告に来てくれる。おじさんである私は泣きそうになります。また、いろんな地域出身の若者が共通して、みんな三原を好きになってくれます。私にとって最高の機会です。今後も求められる限り実施していきたいと思っています。



みんなで三原の未来の扉を開こう！